

第33回 国際労働問題シンポジウム

COVID-19危機から より良い仕事の未来へ —産業別の取組みと社会対話

2020年

12月2日(水)
14時~16時オンライン (Zoom ウェビナー)
参加無料・要参加申込み

主催：法政大学大原社会問題研究所／ILO 駐日事務所 後援：日本ILO 協議会

COVID-19 (新型コロナウイルス感染症) 危機は、世界中の労働者と使用者に影響を与え、経済活動と生計の維持を脅かしました。ILO (国際労働機関) は、COVID-19 危機に対して、産業別に取りまとめた概況を発表し、政労使が講じている措置やILOの支援ツールを提供しました。本シンポジウムでは、産業別でみたCOVID-19危機の違いや対応の特徴を考えるとともに、特に衣料品産業に焦点を当てて、具体的な実態を考察します。

COVID-19の脅威は、地球規模の連帯を通じて初めて解決できる未曾有の危機です。政労使間の実効的な社会対話は、より良い解決策を導き、持続可能な開発目標 (SDGs) の達成を助けます。COVID-19危機を、より良い仕事の未来につなげるために、政労使はもちろん、学生や市民の皆様など、多数の方々のご参加をお待ちしております。

主催者挨拶

高崎 真一 (ILO 駐日代表)

鈴木 玲 (法政大学大原社会問題研究所所長)

ILO 紹介

麻田 千穂子 (ILO アジア太平洋地域総局長)

基調講演**COVID-19 危機とILO—産業別に見た取組み**

伊澤 章 (ILO ジュネーブ本部部門別活動局前次長)

使用者の立場から

吉川 美奈子 (株式会社アシックスCSR サステナビリティ部部長)

労働者の立場から郷野 晶子 (UA ゼンセン参与/インダストリアル・
グローバルユニオン日本加盟組織協議会事務局長)**政府の立場から**

井内 雅明 (厚生労働省大臣官房総括審議官 (国際担当))

学識経験者から

中村 圭介 (法政大学大学院連帯社会インスティテュート教授)

ディスカッション

(司会：法政大学大原社会問題研究所教授 藤原 千沙)

参加申込み

右コードのフォーマットより、お名前、ご所属、メールアドレスを送信してください。
会議IDとパスコードは11月30日(月)にお申込みメールアドレスにお知らせします。



Photos ©ILO